

アベノミクスの功罪

—経済・社会・文化的視点から

早稲田大学大学院教授
川本裕子

- *期待を持たせ、期待を変えた
- *議論はまだ始まったばかり
- *与党に問われる取り組みの本気度
- *あとは実施するだけの規制改革
- *消費者利便がただで上がるのか
- *成長してほしい日本のメデイア
- *世界的な要因も忘れてはいけない
- *中期の歳出の制御をどうするか
- *ウーマノミクスを前進させよ
- *ポストアベノミクスも経済テーマで



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

川本裕子先生はもうご紹介の必要はないと思いますけれども、今日は桜の満開目前というのに最もふさわしい講師をお招きできて（笑）まことにタイミングがいいと思っています。

安倍政権がうまくスタートしているように見えますので、この政策がどの程度、持続性があるのか、それからこれから何をしたいかという本物にならないのかということについてお話ししていただきます。演題も副題も川本さんらしくなっておりますので、今日は経済だけでなくもう少し広い視点からのお話も併せてお聞きできると思っています。ということで今日は楽しみに伺いしたい。それでは川本さんよろしくお願いたします。（拍手）

川本 川本裕子でございます。こんにちは。

このようなお席でお話をさせていただきました。たいへん光栄に思っております。今日は桜も咲き始めて非常にいい陽気です。またこちらに伺うと機嫌が良くなるようなご紹介もいただくことができ、いつもとても楽しいのですけれども、プレッシャーがかかる場でもあります。

今日のお話は今ご紹介いただきましたように、12月の総選挙の後、政権を取った安倍政権の政策についての私の感想を申し上げたいと思います。それで皆様がいるいろいろお考えになる材料の一部になればありがたいと思っています。

安倍政権は、皆さんよくおっしゃっておられるように「期待を一変させた」ことがいちばん大きかったのではないのでしょうか。毎日、アベ